



「三重県ICT導入モデル事業」補助金の交付で、ICT化を加速!

ICTとは、携帯電話やインターネットを通じた「情報通信技術」のこと。政府ではそれを利用したリモートコミュニケーションなど、各分野で様々なICTの活用を推進しています。三重県では、障害福祉サービス分野でのICT化を支援しようと令和2年度補正予算が実施され、名張育成会からは「こどもライフサポートセンターはーと(こども部)」「成美、成峯(居住部)」「くらしサポートゆっくる(地域部)」の4事業所が「ICT導入モデル事業」に選定、補助金が交付されることになりました。これにより、新型コロナウイルス感染症拡大防止策や業務効率向上などに活かすICT化を加速します。



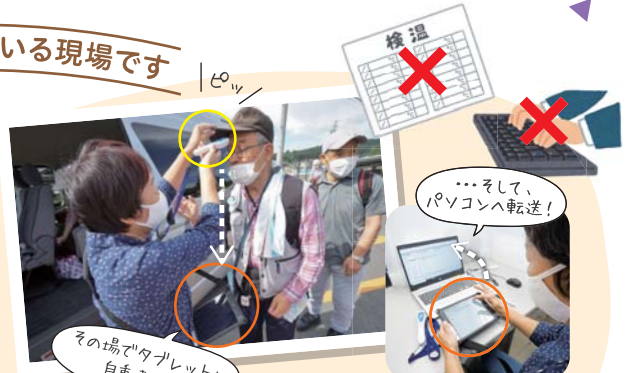
すでに、『オンラインミーティングの実施(ブログMIRAI5月21日)』、『みはた虹の丘こども園の待機児童向け動画配信(MIRAI6月号)』、『就活生に向けた職場説明会や面談のオンライン化(MIRAI7月号)』、『キャリアパスに応じた研修プログラムの開発(MIRAI9月号)』など徐々にICT化によるリモートコミュニケーションを進めていますが、整備を済ませている無線通信環境と併せ今回の補助金交付で、名張育成会全体の30%以上が整備されることになります。これを機に全事業所へのICT化を加速させ、今年度中には法人全体でICTの運用を開始する予定です。

ICT化の第一歩として、各デスクのパソコンを結んでいた無数のケーブルを排除し、電波を発する装置(アクセスポイント)を建物内の要所に設置し無線化の環境を整えます。これにより、必要な時に最適な場所での後方業務が可能となり、〈1、新型コロナウイルス感染拡大防止策〉〈2、満足度の向上や業務の効率化〉〈3、危険回避やリスク低減〉といった効果が期待できるのです。
(※詳しくはウラ面をご覧ください。)

ICTが活かされている現場です



特別養護老人ホームグランツァではいち早くICT化を進め、この春からのオンライン面談は7月末で100件を超えています。このご家族も毎週お越しになり、今回はご近所の仲良しさんも一緒に、気軽にオンライン面談を楽しんでおられました。
(※撮影のために特別な許可を得て、マスクを外しています。)



ういず(通所部)では、送迎バス乗車直前に検温した利用者の体温は、確認後にそのままタブレットに転送。事務所に戻った後の管理パソコンへも、無線で転送するだけです。

ICT化による様々な方とのリモートコミュニケーションによって、新型コロナウイルス感染拡大の防止や、オンライン化による業務効率の向上が実現します。名張育成会はICTでも先駆的な役割を果たし、地域の活性化に寄与するとともに、より最適な福祉サービスの提供に努めてまいります。